

令和8年度 —▶ 令和17年度（2026 - 2035）

岡山市下水道事業 経営計画



2026

岡山市下水道河川局
Okayama City Sewerage and River Bureau



岡山市下水道河川局公式キャラクター

モグリン

下水道の重要性、必要性を広く市民に広報し、下水道施設をより身近なものとして受け取ってもらえるように、1994年に誕生しました。デザインは市の職員が作成し、愛称は市内の小学四年生を対象に募集。6,015人の応募（1,469通り）の中から「親しみがあり、呼びやすい」などの理由で選ばれました。

目次

第1部	新たな経営計画の策定	2
1.1	経営計画の策定にあたって.....	3
1.2	経営計画の位置づけ.....	4
1.3	岡山市下水道事業の理念.....	5
1.4	計画期間.....	6
1.5	経営計画の実行体制.....	7
コラム	下水道について知ろう！	8
第2部	岡山市下水道事業の現状と抱える課題	10
2.1	岡山市下水道事業の概要.....	11
2.2	下水道事業を取り巻く情勢の変化.....	13
2.3	下水道に係る情勢の変化に対する国の動向.....	16
2.4	各分野の現状と課題.....	17
コラム	平成30年7月豪雨の被害をうけて	20
コラム	きれいで豊かな循環する海をめざして	27
2.5	経営指標の推移.....	33
2.6	将来の改築・更新需要の予測.....	36
第3部	経営計画の目標と道筋	38
3.1	施策体系とめざすべき姿.....	39
3.2	施策の方向性と取組内容.....	40
01	老朽化対策.....	40
02	浸水対策.....	42
03	地震・災害対策.....	43
04	未普及対策.....	46
05	環境対策.....	47
06	経営環境強化.....	48
07	組織体制強化.....	50
3.3	計画期間における投資・財源計画.....	51
コラム	接続率向上と安定的な経営	54
第4部	参考資料	60
4.1	岡山市が管理する下水道施設等一覧.....	61
4.2	岡山市における下水道等に関する事業年表.....	63
4.3	用語の解説.....	67

第1部

新たな 経営計画の 策定

1.1 経営計画の策定にあたって

写真：児島湾から岡山平野上空（2018年度撮影）

本市の下水道事業は、1952年に旧国道2号より北で旭川より西の地区215ヘクタールを対象に下水道事業に着手し、1963年1月には、旭西浄化センターの処理開始とともに水洗化が可能となりました。これまでに人口集中区域など高い整備効率が期待できる区域を重点的に整備を進め、人々がより一層安心して快適に暮らすため、生活環境の改善や公共用水域の水質保全、市街地における浸水対策など基本的な使命を継承しつつ、適切な維持管理に努めることにより岡山市の発展に貢献しています。

2012年度には、政令指定都市移行に伴う都市ビジョンの策定や地方公営企業法の財務適用（企業会計へ移行）等を契機とし、一層の効率的な経営をめざす観点から最初の経営計画となる「岡山市下水道事業経営計画」を策定、その後、2016年度からは本市の総合計画である「岡山市第六次総合計画」に合わせて策定した「岡山市下水道事業経営計画2016」（2016年度～2025年度）に基づき、計画的に事業を推進してきました。

計画では、下水道事業を取り巻く現状と課題について、データ等に基づき可能な限り客観的に整理・分析し、下水道サービスを提供するうえで必要な経営資源の確保に取り組みながら、未普及対策や浸水対策、地震・津波対策、環境問題等に対応してきました。また、2021年3月には、平成30年7月豪雨などの激甚化する自然災害や、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会活動の低下による社会環境の急激な変化へ対応するため、中間見直しを行い計画の一部を改定し、市民の皆様への持続的で安定的な下水道サービスの提供に、より一層努めてきました。

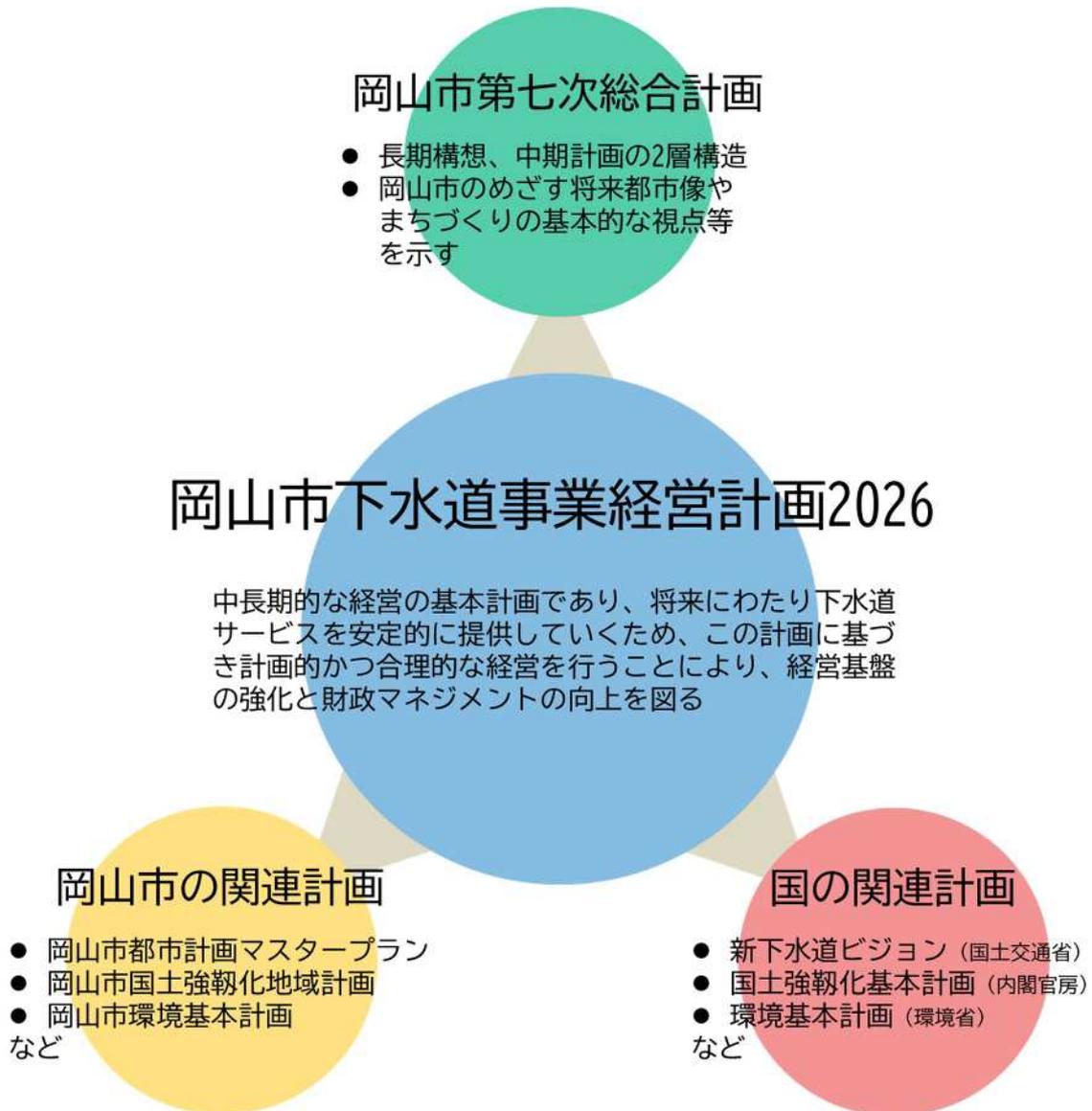
しかし、この間にも、急速に進展する管路や施設の老朽化、浸水被害をもたらす自然災害の激甚化・頻発化、切迫する南海トラフ巨大地震に加え、本格的な人口減少社会の到来、世界的な物価高騰やエネルギー価格の上昇など、下水道事業を取り巻く環境は、より一層、厳しさを増しつつあります。また、循環型社会の構築や低炭素社会の実現、デジタル技術の進展への対応などの下水道事業が求められる社会的な要請にも、しっかりと対応していく必要があります。

これらの課題や環境の変化を適切に把握し、次世代に健全な下水道事業を引き継ぐために、中長期的に投資と財源のあり方を検討したうえで、限られた経営資源（施設、財源、人材）を適切に活用し、本市の下水道事業のめざすべき姿やその実現に向けた今後10年間の具体的な取組内容と目標値を「岡山市下水道事業経営計画2026」として取りまとめています。

1.2 経営計画の位置づけ

新たな下水道事業経営計画は、本市の新たな総合計画として策定される「岡山市第七次総合計画」（2026年度～2035年度）を上位計画とし、関連する市の各個別計画などとも連携しながら事業を推進し、本市がめざす将来都市像の実現に寄与します。

また、本計画は、総務省が公営企業に策定を要請している「経営戦略」に位置づけています。



1.3 岡山市下水道事業の理念

経営理念

下水道事業の持続的な運営を図りながら、 快適で安全・安心なまちづくりに貢献します

新たな下水道事業経営計画では、引き続き「岡山市下水道事業経営計画2016」において策定した以下の経営理念を継続します。

下水道は、生活排水等の汚水処理や大雨の排除による「都市の健全な発達」及び「公衆衛生の向上」に寄与し、あわせて「公共用水域の水質保全」という下水道の役割を果たし続けなければなりません。

人口のさらなる減少が見込まれる中、経営資源（人材（ひと）、施設（もの）、財源（かね））の抱える課題は厳しさを増していくことが予想される一方、比較的新しく整備された本市の下水道施設も急速に老朽化が進展することが見込まれています。

また、切迫する南海トラフ巨大地震（今後30年での発生確率60～90%程度以上）への対応も急務となります。

このような状況にあっても、下水道の役割に必要な事業を適切に選択し、効果的・効率的に取り組むことで、質の高い下水道サービスを将来にわたって安定的に提供していきます。

下水道事業の持続的運営

本市の人口は2020年度をピークに減少に転じ、今後とも減少は進むと予測されています。2021年度末には、初めて公共下水道処理人口が減少しました。

また、生活様式の変化に伴い水需要が減少しており、今後の下水道使用料収入の大幅な増加は見込めない状況です。加えて、資機材価格などが世界的に高騰しており、下水道事業における経営面の制約がますます厳しくなっています。

下水道事業の経営にあたっては、これまで以上に投資と財源のバランスを意識し持続可能な運営を図る必要があります。

快適で安全・安心なまちづくりへの貢献

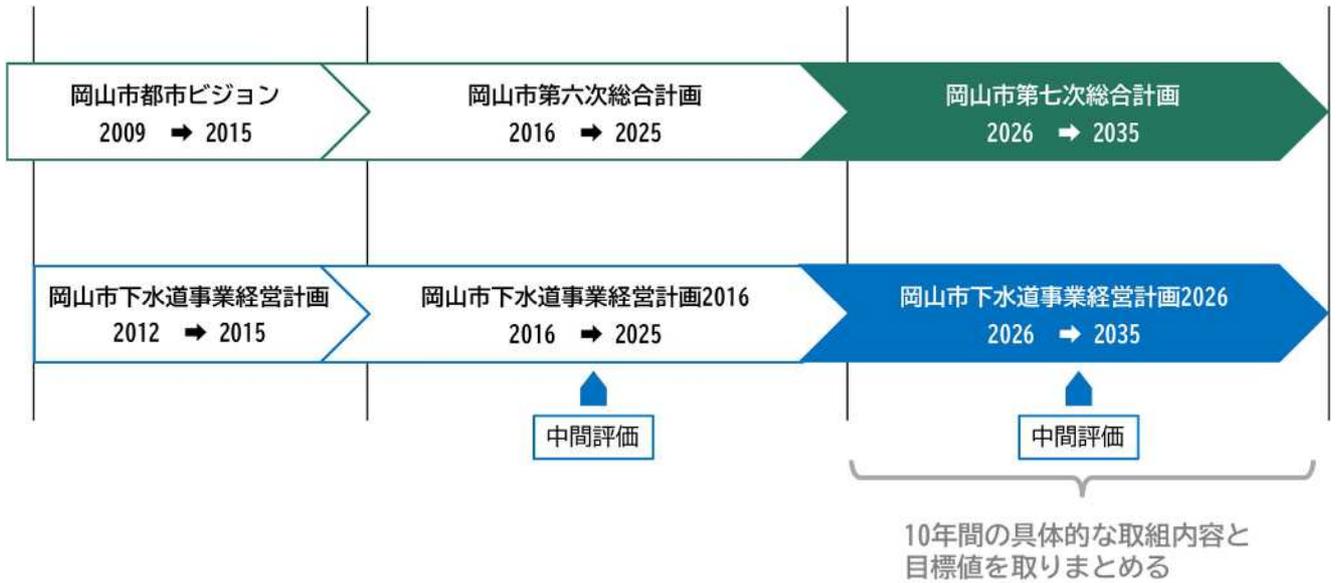
2024年1月に発生した能登半島地震では、上下水道に甚大な被害が発生し、「水が使えることの重要性と水の公共性」が改めて認識されました。さらに、2025年1月には埼玉県八潮市で下水道管の破損を原因とする大規模な道路陥没事故が発生したこともあり、下水道の安全・安心を再構築して、市民の不安を取り除く必要があります。

また、気候変動の影響により激甚化・頻発化する水災害への対応など、浸水対策の取組も継続して実施していく必要があります。

これらに対応する各施策を通じて、引き続き、市民の生活環境・水環境を守り、安全で安心なまちづくりに貢献します。

1.4 計画期間

本計画の計画期間は、2026年度（令和8年度）から2035年度（令和17年度）の10年間とします。ただし、計画期間中であっても、顕在化する新たな課題や社会環境の急激な変化に対応するため、必要に応じて適宜見直しを行います。



新たな経営計画の策定

岡山市下水道事業の現状と抱える課題

経営計画の目標と道筋

参考資料



写真：岡東浄化センター上空（2015年度撮影）

1.5 経営計画の実行体制

岡山市下水道経営会議

本計画の目標達成状況の進捗管理や戦略的な取組を行うため、下水道河川局内に「岡山市下水道経営会議」を設置します。

ここで各施策の目標達成に向けた取組の進捗管理や戦略的な取組方法の検証を行います。PDCAサイクルに基づいた進捗管理を行うことにより、実効性の確保と成果の見える化について取り組みます。PDCAサイクルを回すことにより取組の高度化をめざします。

経営会議で蓄積された報告内容は、ホームページ等での報告を行い、計画の見直しや修正に反映します。



PDCAサイクルによる取組の高度化のイメージ

コラム 下水道について知ろう！

私たちが何気なく使っている「下水道」について役割などを紹介しています

下水道の役割

- まちが清潔になる
- 川や海がよみがえる
- 汚れたものを再利用する
- まちを浸水から守る

大雨からまちを守るのも「下水道」の役割なんだね

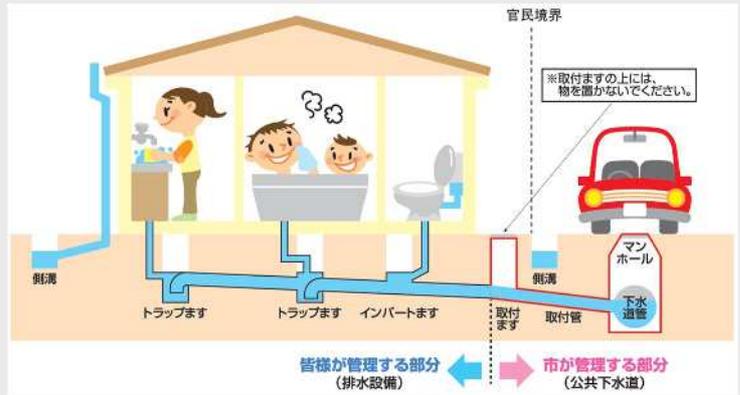


モグリン

下水道のしくみ

下水は、まず敷地内の排水設備を流れ、取付管から下水道管に流れ込みます。この下水道管は道路の下などに埋められていて、汚水を浄化センターまで運び、雨水を川や海まで運ぶ役目をしています

下水道管には、掃除や調査、修理をするためのマンホールがところどころにつけられています



浄化センターで汚れた水がきれいになるまで

1. 沈砂池

汚れた水の中の大きなごみや砂をここで取りのぞきます



2. 最初沈殿池

小さなごみや砂はこの池をゆっくり流れていく間に底に沈みます



3. 反応タンク

たくさんの微生物を含んだ泥をまぜ、空気をたくさん吹きこんでやると微生物が汚れを食べてくれます



4. 最終沈殿池

汚れを食べて重くなった微生物は、この池に沈められて、きれいになった水と汚泥に分けられます



5. 消毒施設

きれいになった水を消毒して川や海へ流します



川や海へ



